きらり

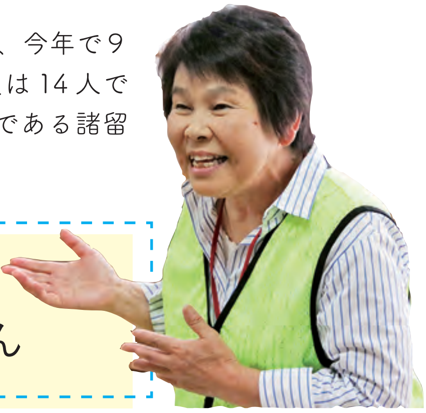
曽於市の「輝くひと」を取材！

第21回

みんなのコーナー

柳迫児童クラブは平成23年から始まり、今年で9年目。現在、入室児童は42人、支援員は14人で活動しています。今回は支援員の一人である諸留さんにお話しを聞きました。

末吉町　柳迫児童クラブ
支援員 **諸留 奉子**さん



児童クラブは、子どもたちが1番自分を出せる場所

—柳迫児童クラブをはじめられたきっかけは？

両親が共働きの子どもさんが小学校に入学する時、児童クラブがなかったために校区外の小学校に通っていたことがきっかけです。これではいけない！と柳迫校区公民館が立ち上がり、人口減少対策の一貫として始めました。

—児童クラブの目的と活動内容は？

目的は、放課後子どもを預けることで保護者が安心して働けることです。

活動内容は、まず第一に子どもたちが安全に過ごせるように見守り、ケガがないようお返しすること。平日子どもたちは児童クラブに来たら自主的に宿題に取組み、分からないところを聞いてきた時はサポートしています。普段は遊ぶ時間が少ないので、そのかわりに休日はそうめん流しやレクリエーション大会、もちつき、門松作りなどの行事を計画して活動しています。

—活動をはじめて良かったことを教えてください。

保護者の方に「いつも安心して預けられる」と感謝されることがありがたいです。また、学校の先生方にもアドバイスをいただき協力いただけることです。

—支援員さんの家族の協力体制は？

晩ご飯の材料を見て旦那さんが作ってくれたり、勤務前に下ごしらえまでしておくなど皆さんそれぞれです。お互いができることを補って協力し合っています。

—子どもたちの地域活動への参加について

柳迫の夏祭りや福祉大会で「男節」を踊りました。また、祭りの時灯篭に絵を描くなど地域活動に参加しています。

—支援員さんが活動する中で心がけていることは？

日々の出来事をしっかりと記録簿につけて、お互いに情報共有し、常にその日の状況を把握しておくことです。また、児童クラブは学校と家庭をミックスさせた自由な放課後の場で子どもたちが一番自分を出せるところ。学校では緊張感もあり、家庭では塾や習い事などそれぞれの子どもの家庭環境や背景を考えないといけません。私たちも怒りたくなることもありますが（笑）。できれば怒らないように優しい気持ちを長く、心を大きくもって毎日接するように心がけています。

柳迫児童クラブでは、地域の結束と絆の深さを感じました。支援員の皆さん、これからも子どもたちを温かく見守ってください。

柳迫児童クラブ第二教

柳迫児童クラブの子どもたちと支援員の皆さん

【取材：曽於市男女共同参画推進員】
島子正一郎・馬場雅子・牧元宝治・末永順子